

信州大学医学部の発展を目指して

久保 惠 嗣

一昨年6月、医学部長を兼任して以降、信州医誌で挨拶するのは初めてです。地方の(旧)国立大学の今後の行く末を案じつつも、我々信州大学医学部の引き続いての発展を願うべく、最近の本学部の取り組みについて紹介し、先生方のご理解を得たいと思います。

信州大学のみならず、地方の(旧)国立大学医学部は、今後とも優れた医学教育を提供できるか、先進的で創造的な医学研究を構築できるか、あるいは大学(医学部)附属病院(以下、大学病院)として高度の医療、教育および臨床研究を実践していけるかどうかの存亡の危機に迫られているといっても過言ではありません。その最も大きな理由は、言うまでもなく、平成16年(2004年)から開始された国立大学法人化および新医師臨床研修制度(以下、新研修制度)の導入です。

法人化に伴う運営費交付金の減額は、直接的ではありませんが教員数の削減に繋がります。さらに、大学病院に大きな影響を及ぼしてきました。大学病院は診療とともに一般の病院と異なり医学生および研修医などの教育、研究という使命を合わせ持つために、病院としての採算性に関わらずすべての診療科を持ち、収入を度外視した施設・設備を有すること等から苦しい財務状況にあります。大学病院の運営費交付金の減少に対して、臨床系の教員は、病床稼働率の増加、在院日数の短縮、手術件数の増加など懸命な経営努力を続けています。しかし、これは必然的に教員の教育、特に研究に関わる時間を短縮させました。

新研修制度の導入は、地方の大学病院での卒後研修のマッチング数の減少をもたらしました。それでも、後期研修で帰学するのではないかと期待していました。しかし、大学病院への帰学(あるいは卒後の残留)率は、新研修制度以降、以前には70%以上あったものが、21年度も40%前後と回復がみられません。この結果、従来のような大学医局からの医師派遣システムが崩壊し、地域医療崩壊の大きな引き金になりました。さらに深刻なのは、以前のように卒業後基礎医学教室に入局するMDが激減し、基礎医学の活力の低下、大学院生の減少など由々しき事態が生じています。

これらは、地域医療の崩壊以上に、研究力の低下という医学部にとって非常に憂うべき事態を惹起しました。英語論文の数で研究力を見るというのは問題があるかも知れませんが、図1は信州大学医学部の英語論文数の推移をみたものです。平成16年以降の減少が明らかです。私の所属する内科学第1講座も同じような分布を示しています。

国の財政状況が厳しい中、国立大学に対する運営費交付金は減額されることがあっても増額することはないと考えるべきです。

以上の現状を踏まえ、信州大学医学部の教育、研究、さらに診療をより一層発展させるために、医学部が抱える3つの大きな課題、すなわち、大学院の在り方、教員組織体制および医学教育の見直しに関する短期ワーキンググループ(WG)を設け検討に入りました。

大学院は、研究を遂行する上で中心的存在であり、最も活発に活躍して頂きたい部門です。しかし、医学系研究科の修士課程および博士課程の充足率は減少しつつあります。特に臓器移植細胞工医学医科学系専攻、加齢適応医科学系専攻の2専攻の定員充足率はここ数年低下しています。文部科学省が課す90%以上を維持するのは残念ながら困難と言わざるを得ません。一方、今後の少子化社会を迎え高等教育の在り方が論議されている中で、中央教育審議会大学分科会などで大学の機能

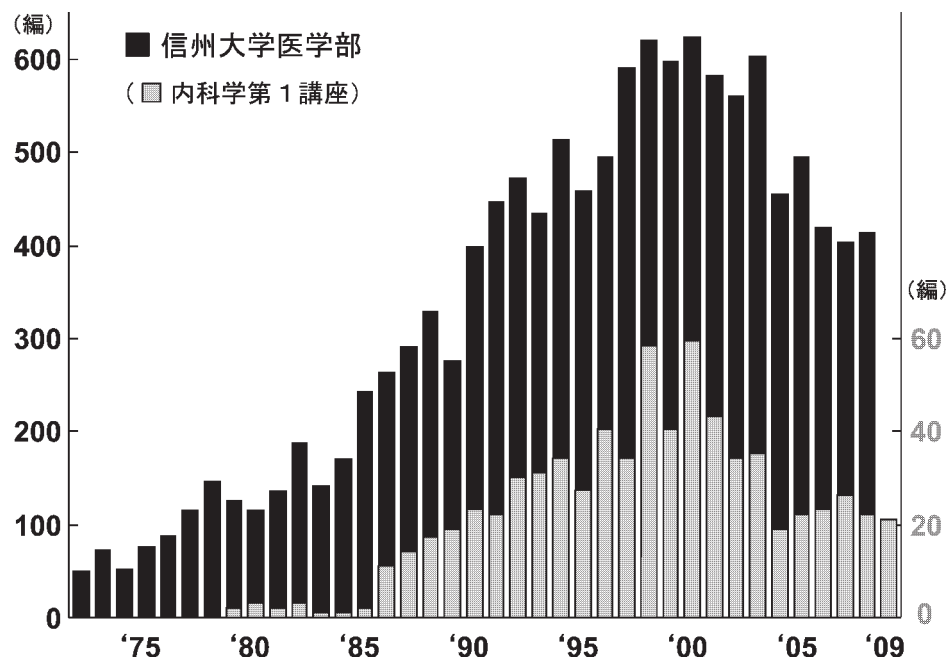


図1 信州大学医学部の英語論文数の推移

2004年（平成16年）以降、医学部全体の英語論文数は減少している。
 （2004年以降、内科学第1講座から循環器内科部門が独立した）

別分化，大学間のネットワーク化，リーディング大学院構想などが模索されています。以上を踏まえ，博士課程の改組なども加味した大学院の見直しにつき検討したいと考えています。

医学部の教員組織体制の見直しWGでは，現在，信州大学の教員の定数はポイント制により管理されており，実質上定員は削減されつつあるという現状をしっかりと把握し，一方では教育，研究，診療の活力を保持し高めて行くためには，今以上の定員削減は何としても防ぎたい，むしろ増員させたい，ということを目的に議論しています。

現在，本学部における医学教育に関わる組織としては，医学教育センター，医学教育学講座（寄附講座），地域医療推進学講座（寄附講座），卒後臨床研修センター，地域医療人育成センター，先端医療教育研修センターと多岐にわたっています。信州大学医学部・医学部附属病院における医学教育を卒前・卒後・生涯にわたりより良いものにするを目的に論議し，これらの組織の在り方・統合などにつき検討したいと考えています。

最後に，直近の課題として臨床研究棟・基礎研究棟の耐震改修・内部環境改善の工事およびこれと並行して計画している医学部再開発事業に触れたいと思います。平成20年度から開始された臨床研究棟の耐震改修・内部環境改善工事が昨年度で終了し，本年度から基礎研究棟の工事が開始されます。今回の一連の工事は，内部改修も可能ですので，臨床研究棟東側の臨床講堂の内部改修および可能であれば第一・二講義室2階を実験室・視聴覚教室として改修する信州大学医学部の再開発事業と位置づけております。本事業の推進には相当額の自己資金が必要であり，松医会の皆様にお願ひし募金活動を行っていますが，全ての教職員・学生（父母会）のご理解・ご支援を頂きたいと切に希望いたしております。

以上，今後の信州大学医学部の発展のために，先生方のご指導・ご鞭撻を何卒よろしくお願いいたします。

（平成22年7月）
 （信州大学医学部長）